

## 山の百名花

講師 大津 洋介

## 【15】フクジュソウ(福寿草)

下界は春爛漫の世界が、わずか八百m登った八合目では、樹木の芽は固く閉じて、まだ冬の様相です。樹木の下には黄色の花が転々と咲いています。ここは鈴鹿山脈藤原岳、フクジュソウのメッカです。

フクジュソウはキンポウゲ科の草本で、早春、一番に花が咲きます。江戸時代より園芸品種が作られ、お正月の飾りとして鉢植えにされてきました。

一般に紹介されている写真の多くは、雪の下から小さな花冠を持ち上げているものですが、ここでは、もちろん雪は今の時期にはなく、大きな花の下に細い葉をいっぱいに広げ、樹木の発芽前に太陽の恵みで早いところ栄養分をたくさん作るうとしていきます。

鈴鹿山脈のほぼ南半分は花崗岩で構成されていますが、北半分は伊吹山から続く石灰岩で構成されているので、石灰岩の土壌を好むフクジュソウが多く見られます。八合目から上では、高度を上げるとともに多

くの花が見られるようになり、主稜線の避難小屋周囲には所狭しと咲いています。

こんなきれいな花でも毒を持っているようです。まだ緑浅い春一番に芽を出すので、虫などの外敵に葉を食されないよう身を守るための自己防衛なのでしょう。



## 【16】ミツバツツジ

2005年の春はツツジ類の花の当たり年でした。ミツバツツジも西上州や丹沢で、まだ、早春のモノトーンの山腹に転々とピンク色の模様を作っていました。丹沢にもこんなにミツバツツジがあるんだと、改め

て気づいた春でした。

ミツバツツジと名がつくものは、ミツバツツジ、トウゴクミツバツツジ、コバノミツバツツジ、サイコクミツバツツジ、さらに、キヨスミミツバツツジ・・・、この紙面ではあげられないくらいたくさん種類があります。落葉のツツジで、名前の通りかわいいうる3枚の葉を枝先に輪生します。花は葉より早く開くので、早春の山に派手な彩りを添えて、春のおとずれを伝えてくれます。

関東地方で主に見られるのは、ミツバツツジとトウゴクミツバツツジです。外観では、見分けるのが難しいですが、ミツバツツジはおしべが5本、トウゴクミツバツツジは10本で、見分けることが可能です。私のような素人は花にちよつと失礼して中をのぞかせていだだかないとわかりません。数年前、ゴールデンウィークに南アルプスの茶臼岳への新緑の尾根を登りました。ブナなどの新緑の下にたくさんミツバツツジの花を楽しみながら急登を難なく登りきることができました。今から春のミツバツツジが待ち遠しいです。